

要望書は、行政のあり方を問い、市長や執行部に具体的な問題や対案を提起するための重要な議会行為です。館山公明党は、初当選以来毎回欠かさずに行っています。

—2019年6月10日—

子どもや歩行者の安全対策の強化を求める要望書

日本は先進国の中で歩行者が死亡する交通事故の割合が多い現状があります。内閣府の「交通安全白書」によると、2016年の交通事故死者数のうち歩行者が占める割合は、米仏独などが15%程度なのに対し日本は35%と高くなっておりま

す。館山市内においては平成24年度に、登校中の小学生が犠牲となった交通事故が発生しました。また、大津市では、保育園児が園外活動の移動中に巻き込まれた交差点での事故など、連日の痛ましい報道に触れ、深い悲しみと強い憤りを感じずにはいられません。このような現実を目の当たりにし、事故撲滅に向けた安全対策の強化は多くの市民の願いでもあります。

さらに、交通事故だけではなく、5月28日には川崎市において多くの児童が登校中に痛ましい死傷事件に遭うという異常事態も発生し、私たちはどのようにして子ども達を守ればよいのか、暗澹たる思いを禁じ得ません。

しかしながら、一連の事故を教訓にして、痛ましい事故を防ぐための努力を怠ってはならず、より一層の安全確保に取り組まなければならないと考えます。

この度は、子ども達と市民の命を守るために、本市が警察・国・県・地域等との連携を強化しながら、下記の安全対策を講じるよう要望致します。

記

- (1) 危険な交差点や移動コースの安全向上のため、ガードパイプやポールの設置
- (2) 車の右左折による事故を防ぐための信号システムの改善と右折用停止線の導入
- (3) 消えかかっている横断歩道や路側帯・路面標示等の迅速な引き直し
- (4) 「ゼブラ・ストップ作戦」の強力な推進
- (5) 保育施設・学校・地域等からの改善要望のある危険箇所への対応強化
- (6) 行政と地域が一体となって取り組める「子どもの見守り活動」の推進

令和元年6月10日

館山市長 金丸謙一様

館山市議会会派 公明党
龍崎 滋
瀬能 孝夫

定例会行政一般通告質問

3月 ふるさと納税

▼ふるさと納税の有効活用について、納税の現状と活用の効果を伺いたい。

答 今年度1月末現在の実績は、寄附件数8046件、寄附金額は2億2045万8315円で前年度と比較して寄附件数で2.63倍、寄附額で1.75倍。頂いた寄附金は指定された事業や、子育て支援・教育の充実、有害鳥獣対策など館山市の課題となっている事業に活用。今後は、より強く寄附者の共感が得られるよう指定事業のPRや実績報告を充実させていく。近年はふるさと納税で館山を知る人も多く、更なる魅力アップに加え、寄附者との継続的なつながりを作り、実際に地域に関わる「関係人口」の創出と市の活性化につながる仕組みについていきたい。

解説 ふるさと納税の寄付が増加することにより、市では貴重な財源が入り、返礼品提供事業者は収益の向上につながります。それ以上の経済効果を生み出すために、寄附者が館山に訪れたり、地域づくりに参加をして館山市との関係を深める「関係人口」の創出の必要性を述べました。



3月 地区の防災計画

▼災害対策として地区防災計画についての市の取り組みを伺いたい。

答 災害対策基本法の改正において、自助、共助に関する規定が追加され、地区単位の居住者が行う自発的な防災活動に関する「地区防災計画」制度が施行避難所運営においてもされた。現在館山市では、町内会ごとに146の自主防災組織を設立しており、それぞれで避難訓練や防災講座等の訓練を実施しているが、市内で「地区防災計画」を策定した地区はない。

解説 国「防災基本計画」や地方自治体が定める「地域防災計画」よりも、より地域の実情に沿った計画として、地区ごとに実践的な自助共助の活動をまとめておくことが重要です。東日本大震災以降、ずっと自主防災組織の充実を訴えてきましたが、地域防災リーダーの養成とともに、避難所運営委員会の立ち上げで災害に備えるように要望をしました。



6月 食のまちづくり

▼館山市地産地消推進条例制定後の地産地消の推進状況と、食のまちづくり計画の進め方を伺いたい。

答 地産地消を推進する事業は、館山まるしえ・じのもん料理コンテスト・直売所スタンプリナーなどを実施。また、たてやま食のまちづくり協議会のホームページの作成に着手してきた。食のまちづくり計画の進め方は、生産と流通、商品化やサービシ化、需要や消費の仕組みや繋がりを強化し、地産地消が進みやすい環境の構築をして、農水産業や地域産業の活性化を目指す。この計画を短期間で実現することは困難なため、稲の拠点施設用地の利活用も含め順次進めていきたい。

解説 「館山市地産地消推進条例」は産業振興と活性化を求め議会として政策提案を示した重要な条例です。行政、市民、事業者がそれぞれの役割を理解して、ともに館山市の発展を目指す大事なスタートとなります。



6月 通学路の安全対策

▼通学路の安全点検や安全対策はどの様に進めているのか。

答 平成25年度に「館山市通学路交通安全プログラム」を策定し、全小中学校の通学路の安全対策を推進しているが、近年の事故や事件を踏まえ、防犯、防災の視点でも点検を行い、道路標示の再塗装や信号機、歩道の設置をしている。

解説 最近発生した痛ましい事故を受け「子どもや歩行者の安全対策の強化を求める要望書」を提出（3頁参照）、安全対策の現状と今後の取り組みを伺いました。その他、高齢者へのゴミだし支援や介護と買い物支援を組み合わせた高齢者サービスの質問と農業用のため池管理保全法の公布を受けて、今後の保全管理の取り組みを伺いました。

今年度ハザードマップを作成する山本壇について（4頁フォトニュース）地元住民との話し合いや要望などの聞き取りをお願いしました。

